チャップリンのニューヨークの王様（1957）

A KING IN NEW YORK

メディア　映画
ジャンル　コメディ
製作国　イギリス
色彩　B&W
時間　105分
初公開日　1959/02/28
公開情報　東急＝大和
リバイバル　1976/02［東宝東和］

【解説】

「ライムライト」以降、赤狩りのアメリカを嫌い、母国イギリスへと帰ったチャップリンが五年の沈黙を破って発表した、痛烈なアメリカへの諷刺に充ち、だからこそ、溢れる第二の祖国への郷愁を感じさせずにはおかない、骨太のコメディだ。最後の主演作で、これまで放浪紳士を演じ続けた（たまに“独裁者”に浮気もしたが）彼が、小国とは謂えども、王様を演じるのも、時代の皮肉。さて、ヨーロッパの某小国に社会主義政変が起こり追放に近い形でアメリカへ亡命した王様。自由を求めてやって来たその地は、醜悪な商業主義に侵され（この際、ロックンロールに対する無理解は許そう）、狂ったマッカーシズムの席巻する、自国以上に居心地の悪い場所だった……。資本論を引用するこまっしゃくれた坊やと論争したり、その笑いはいささか高級な部類に属するのだが、もちろん、チャップリンならではのストレートな笑いもある。傑作なのは、若返りに整形手術を受けた王様が、術後にうっかり笑って、その顔がぐにゃっと歪んでしまう場面。これを特殊メイクなどではなく、“顔技”でみせる老喜劇王の素晴らしさ……。ニューヨークに実際に行かずに（不法出国をした彼が再び入国を許されるのは、それから何年も後だ）作られた（ハリウッド映画でも往々にしてそうだが）ニューヨークも、また見ものである。

【クレジット】

監督	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
製作	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
脚本	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
撮影	ジョルジュ・ペリナール	Georges Perinal
音楽	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
出演	チャールズ・チャップリン	Charles Chaplin
	ドーン・アダムス	Dawn Addams
	マイケル・チャップリン	Michael Chaplin
	オリヴァー・ジョンストン	Oliver Johnston
	マキシン・オードリー	Maxine Audley
	ハリー・グリーン	Harry Green
	フィル・ブラウン	Phil Brown

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.